

故郷の人物を知ろう

たかおか

おん こ ち しん

温故知新

すえもり

末森の合戦に向かう佐々成政を迷わせた／

ざっさ なりまさ

ひょうえ

田畑兵衛（生没年末詳）

兵衛は戦国時代末の武士です。兵衛は、父主水とともに、能登守護畠山家の家臣三宅家秀に仕え、能登・越中境に広大な山林が与えられていました。田畑家の由緒書では主水が能登で戦死したので、兵衛は出家し沢川（福岡町沢川）に移ったとされます。

1584（天正12）年3月、羽柴秀吉と織田信雄・徳川家康が争う「小牧・長久手の戦い」が始まると、当初秀吉に従っていた越中の佐々成政は家康らと結び、秀吉方の能登・加賀の前田利家・利長と対立します。

同年9月6日、成政は2万余（諸説あり）の大軍で加賀・能登境の重要拠点である末森城（宝達志水町）を攻めるため畠山城を出陣します。成政は木舟

城（福岡町木舟）に入ると、兵衛を呼び寄せ、末森城への道案内を命じます。兵衛は前田氏に心を寄せていたので、直ちに息子を末森城へ報告に行かせ、自らは案内人となって成政に従うふりをします。

兵衛はわざと道でもない回り道や難所などへ佐々軍を誘い、迷わしてから末森城へ逃げ去ると城主の奥村永福に報告します。9日、成政は何とか宝達山を越え坪井山（宝達志水町）に本陣を構え、末森城へ攻め寄せます。10日、永福から急報を受けた利家は金沢を出陣し、松任城の利長と津幡で合流。11日、佐々軍の背後を奇襲して勝利しました。

戦後、兵衛は利家よりその功績が賞され、先祖伝来の広大な山林が保障されました。のち子孫は代々十村分役の「山廻役」を務めました。

（仁ヶ竹主幹）

問合先 博物館 TEL 20-1572



沢川田畑家の大杉
（市天然記念物）